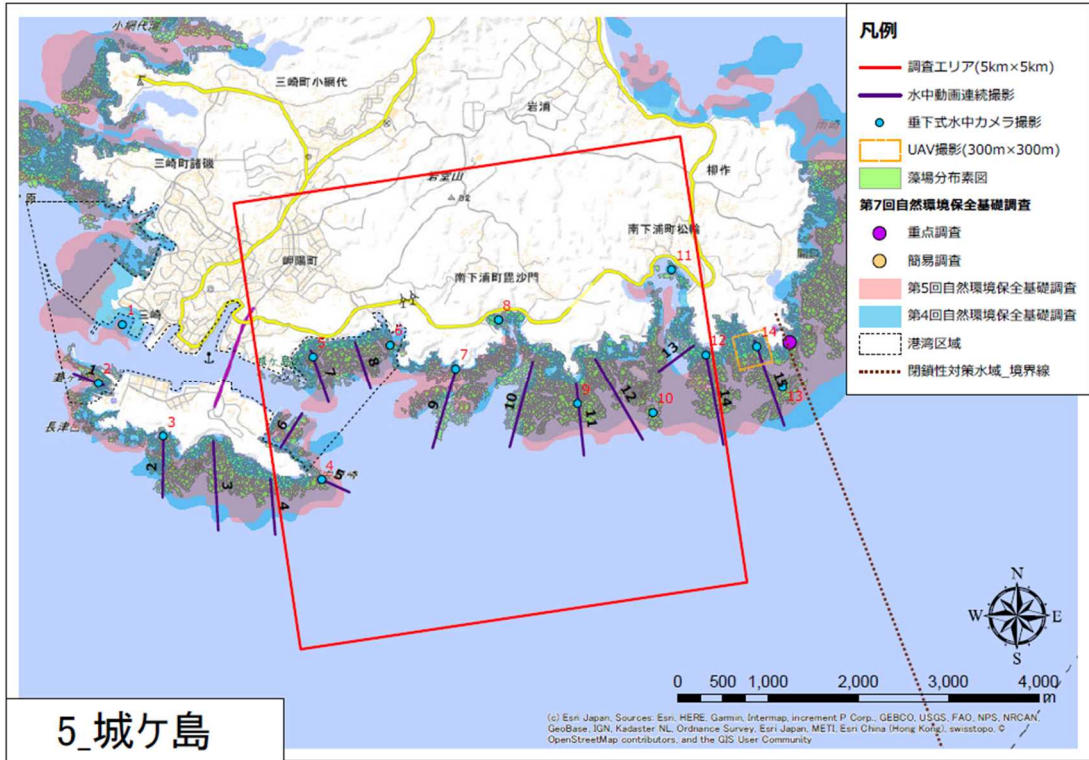


(1) 調査海域名	中部太平洋沿岸海区 城ヶ島
(2) 調査海域の所在	神奈川県三浦市城ヶ島周辺
(3) 調査海域及び調査位置図	



(4) 調査位置の詳細 (JGD2011)

詳細な位置情報は掲載しておりません。詳細な位置情報を希望される場合は、藻場調査ウェブサイトの「現地調査の結果」の「調査結果（データ）」をご覧ください。

【水中動画連続撮影】

ライン 番号	岸側基点		沖側基点		測線距離 (m)
	緯度	経度	緯度	経度	
1	-	-	-	-	302
2	-	-	-	-	554
3	-	-	-	-	813
4	-	-	-	-	507
5	-	-	-	-	303
6	-	-	-	-	371
7	-	-	-	-	505
8	-	-	-	-	450
9	-	-	-	-	751
10	-	-	-	-	807
11	-	-	-	-	653
12	-	-	-	-	853
13	-	-	-	-	401
14	-	-	-	-	832
15	-	-	-	-	821
総測線距離					8,923

【垂下式水中カメラ撮影】

スポット番号	緯度		経度	
1	-	-	-	-
2	-	-	-	-
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
9	-	-	-	-
10	-	-	-	-
11	-	-	-	-
12	-	-	-	-
13	-	-	-	-
14	-	-	-	-

【 UAV 撮影 (オーバーラップ撮影) 】

調査地点	緯度		経度	
A	-	-	-	-
B	-	-	-	-
C	-	-	-	-
D	-	-	-	-

(5) 調査年月日 令和元年7月11日、12日、8月19日

(6) 調査者 三洋テクノマリン株式会社 代表：北野慎容

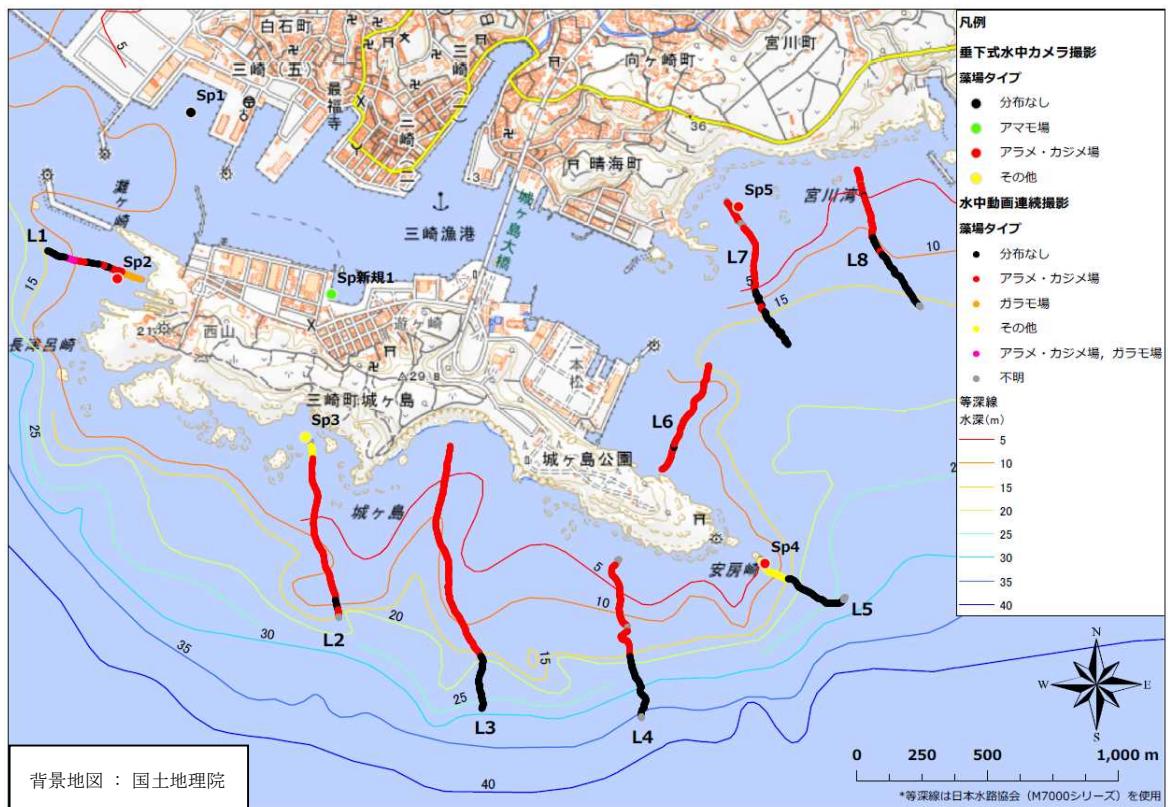
(7) 調査海域の概要

本海域は相模湾で代表的な藻場が形成されている1つであり、水深約20m以浅でアラメ・カジメ場がみられる。その他にヒラネジモクやノコギリモク等のホンダワラ類や、プリヒバやユカリといった小型海藻がみられる。年間平均風速は8.0 m/sを以上であり、洋上風力施設設定可能な海域(極浅海域・砂質域)が近隣に存在する。

《参考》第7回自然環境保全基礎調査；木下ら(2009)相模湾の透明度とカジメ群落分布の変遷，黒潮の資源海洋研究，10号，p.27-30

(8) 調査結果

【水中動画連続撮影】○測線1~8の状況



測線 1 の状況：岸側水深約 5～10 m では岩礁域、沖側水深約 10～20 m では砂質に巨礫が点在する測線であった。岸よりではカジメやホンダワラ類がみられ、その被度はカジメが 5～10%、ホンダワラ類が 30～50%であった。沖側では、点在する巨礫上にカジメがみられた。

測線 2 の状況：水深約 5～20 m で、岩盤と砂質が混在する測線であった。岩盤にはカジメがみられ、水深約 5～14 m で特に高被度（20～100%）であった。その他の構成種としては、水深約 5 m 付近でテングサ属（最大被度 70%）の密生する範囲がみられた。水深約 15～20 m では砂質の割合が増加し、砂質に岩盤が点在し、その岩盤上にはカジメがみられた。

測線 3 の状況：水深約 5～35 m で、岩盤であり、岩盤と岩盤の間の谷間には砂や礫が堆積する測線であった。水深約 5～20 m の岩盤にはカジメがみられ、水深約 5～14 m で特に高被度（85～100%）であった。その他の構成種としては、ホンダワラ類（最大被度 10%）が確認された。水深約 20～35 m では、海藻草類はみられなかった。

測線 4 の状況：水深約 7～37 m で、岩盤と砂質が混在する測線であった。水深約 7～26 m の岩盤にはカジメがみられ、水深約 7～12 m で特に高被度（70～100%）であった。その他の構成種としては、ホンダワラ類（最大被度 10%）がみられた。水深約 26～37 m では、海藻草類はみられなかった。

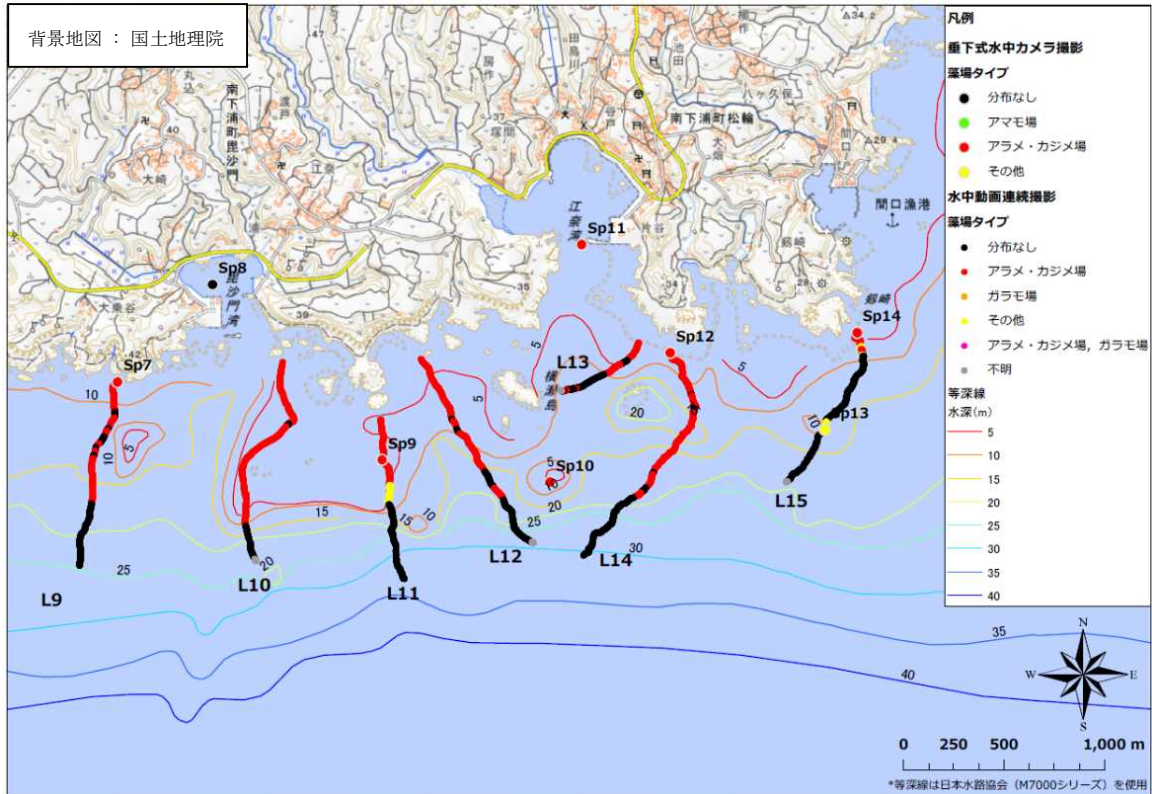
測線 5 の状況：岸側水深約 14～33 m では岩盤であり、沖側水深約 34 m 付近で砂質に変化する測線であった。水深約 14～16 m ではテングサ属（被度 5%未満）が僅かに確認される程度であった。

測線 6 の状況：水深約 6～17 m では岩盤であり、砂質と礫が点在する測線であった。岩盤では、カジメ（被度 20～100%）がみられた。

測線 7 の状況：水深約 5～13 m では岩盤であり、水深約 13～20 m では砂質に巨礫が点在する測線であった。岸よりの岩盤ではカジメ（被度 20～70%）がみられた。その他の構成種としては、ホンダワラ類（最大被度 5%）がみられた。沖側の点在する巨礫上では、カジメがみられた。

測線 8 の状況：水深約 4～14 m では岩盤、水深約 14～16 m では砂質域に変化する測線であった。岸よりの岩盤ではカジメ（被度 20～100%）がみられた。沖合の砂質域には、海藻草類は確認されなかった。

○測線 9～15 の状況



測線 9 の状況：水深約 13～25 m では、岩盤と砂質が混成し、沖にむかって水深約 25～27 m で砂質に変化する測線であった。岸よりの岩盤上ではカジメがみられ、水深約 13～16 m で特に高被度（被度 80%）でみられた。その他の海藻としては、ホンダワラ類（被度 5%未満）やテングサ属（被度 5%未満）の海藻がみられた。沖側の砂質では海藻草類が確認されなかった。

測線 10 の状況：水深約 5～25 m では岩盤であり、岩盤と岩盤の谷間には砂質や礫が堆積する測線であった。岸よりの水深約 5～11 m でカジメ（被度 20～100%）がみられた。その他の海藻としては、テングサ属（被度 5%未満）でみられた。沖に向かって水深約 12～25 m では、海藻草類は確認されなかった。

測線 11 の状況：水深約 5～35 m で、岩盤と砂質が混在する測線であった。岸よりの水深約 5～15 m でカジメ（被度 20～100%）がみられた。その他の海藻としては、ホンダワラ類（被度 5%未満）やテングサ属（被度 5%未満）の海藻がみられた。水深約 20～35 m では、海藻草類は確認されなかった。

測線 12 の状況：水深約 5～31 m で岩盤と砂質が混成する測線であった。水深約 5～20 m ではカジメがみられ、水深 5～10 m で特に高被度（最大被度 100%）でみられた。水深 16～20 m でカジメ（最大被度 10%）やホンダワラ類（被度 5%未満）、テングサ属の海藻がみられた。水深約 24～31 m では海藻草類はみられなかった。

測線 13 の状況：水深約 5～14 m で岩礁と砂質が混在する測線であった。水深 5～10 m ではカジメ（被度 20～40%）がみられたが、その他の海藻草類はほとんどみられなかった。

【垂下式水中カメラ撮影】

垂下式水中カメラ撮影の結果は以下のとおりで、城ヶ島北岸の港内にアマモがみられた。城ヶ島外洋側～劔崎では、カジメを主体としてホンダワラ類やテングサ属の海藻がみられた。

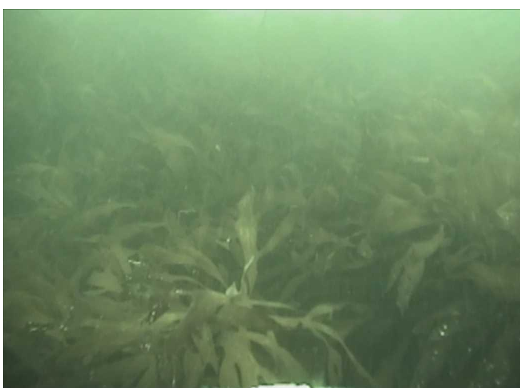
地点番号	水深 (m)	主要な構成種	底質	備考
Sp1	10.3	分布なし	1, 4	-
Sp2	9.7	カジメ 30%、ホンダワラ類 20%	1, 4	-
Sp3	-	テングサ属 70%	1, 2	-
Sp4	13.4	カジメ 80%	1	-
Sp5	4.0	カジメ 30%、ウミウチワ+	1	-
Sp6	7.4	カジメ 30%	1, 2	岩礁上にカジメ密生
Sp7	10.2	カジメ 50%、ホンダワラ類+	1	岩礁の谷に砂が溜まる
Sp8	1.2	分布なし	4	浮泥が一面に広がる
Sp9	5.2	カジメ 50%	1, 3	-
Sp10	10.4	カジメ 5%、ホンダワラ類+、 テングサ属+	1	-
Sp11	8.8	カジメ+	2, 4	根固ブロック上にカジメが生育
Sp12	7.0	カジメ 30%	1, 4	-
Sp13	15.9	その他+	1, 4	-
Sp14	7.8	カジメ 30%	1, 2	-
Sp 新規 1	3.5	アマモ 70%	4	現地ヒアリングの結果、アマモ場の確認 をするために実施



アマモ 水深約 2 m



カジメとホンダワラ類の混生藻場
水深約 10 m



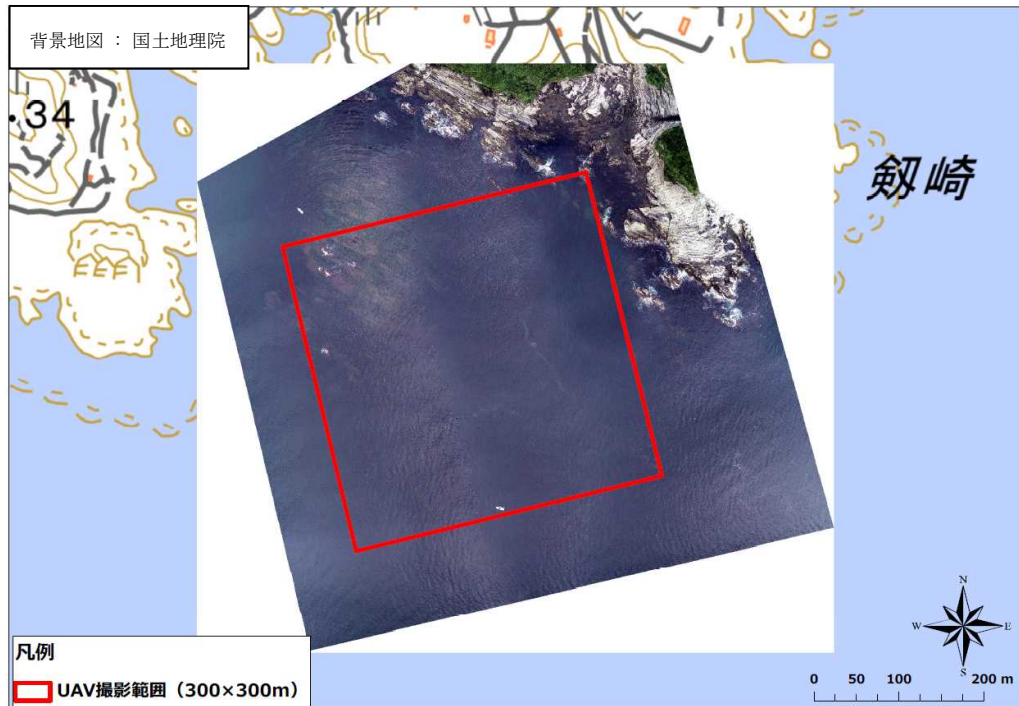
カジメ群落 水深約 5 m



カジメ群落 水深約 15 m

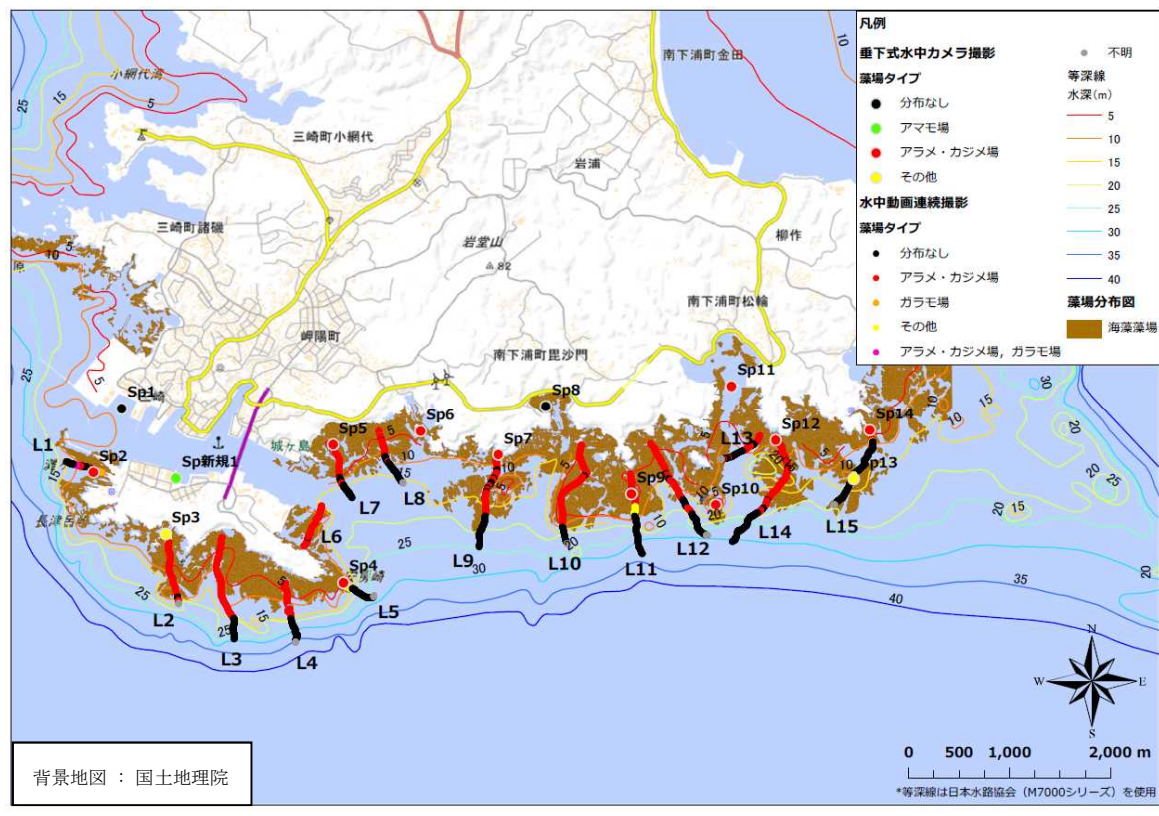
【UAV 撮影】

300m 四方のオーバーラップ撮影の結果、300m 四方全域でオルソ化された。海域の一部では、低輝度の藻場らしい影がみられたが、海面の揺らぎと濁りがあり明確にはならなかった。



撮影時間	潮位 (m)	風向・風速	波高 (m)	撮影高度 (m)	備考
10 : 51~11 : 01	CDL 1.12 m	NE・1.2 m/s	0.3 m	149 m	-

(9) 藻場分布図



(10) まとめ

起伏に富んだ岩礁を主体とする地形が広がる城ヶ島～釧崎では、カジメを中心にホンダワラ類や紅藻類（テングサ属）がみられた。カジメは水深約3～26 mの範囲で観察され、水深約14mまでは、高被度（被度75%以上）でみられた。

城ヶ島北岸の港内では、水深3.5 m付近にアマモが被度70%でみられた。

(11) その他特記事項

既往知見で確認されているアラメが確認されなかったが、本手法では、岩礁域では、水深4m以浅へは進入できず、アラメの出現が期待出来る浅海域の観察ができなかったためと考えられた。



アマモの生息地周辺（地点新規1）



暗礁近傍の灯標（測線10）



周辺の刺し網（測線15）



海女の操業様子